

## 日本グラフィックデザイン協会の 創作保全活動

公益社団法人日本グラフィックデザイン協会（JAGDA）事務局 近藤直樹

### ◇ 日本グラフィックデザイン協会について

公益社団法人日本グラフィックデザイン協会（略称：JAGDA / ジャグダ）は、グラフィックデザイナーの全国組織として1978年に設立され、2013年に公益社団法人に移行しました。現在、国内外に約3,000人の会員を擁するアジア最大級のデザイン団体です。

JAGDAは設立以来、展覧会やセミナーの開催、年鑑の発行やアワードの運営、デザインによる地域振興や公共デザインの取り組み、国際交流など、さまざまな公益事業を全国各地で展開しています。特に、デザインの知的財産権の保護やデザイナーの創作環境を保全するための活動を長年に渡って精力的に取り組んできました。2021年に策定した「JAGDA VISION」【表1】のもと実施されている近年の主な事業の概要について、創作保全活動を中心に紹介します。



●表1

#### 「JAGDA VISION」(2021年)

グラフィックデザインので、コミュニケーション環境を革新していく。

1. 未来に向き合い、グラフィックデザインの可能性を問い続ける。
2. 広く社会や行政にグラフィックデザインの意義を説き連携を生み出す。
3. グラフィックデザインの現在を集約し発信する。
4. 安心して仕事ができる環境を整備し、職能の権利を保全する。
5. 若い才能、新しい才能を発見し、世界に送り出す。
6. 日本の伝統と文化を守り、グラフィックデザインの歴史を継承する。
7. 世界のデザイン活動の諸相との交流を深め、活動の意識と範囲を広げる。

### ◇ 当協会の主な活動

#### 1) 年鑑『Graphic Design in Japan』

1981年より年鑑『Graphic Design in Japan』を発行しています。毎年JAGDA会員から募集し、厳正な選考を通過した作品や仕事（総図版数1,000点以上）を掲載しています【写真1】。また、全出品作品の中から、最も優れた作品とその制作者に贈られる「亀倉雄策賞」、特に優れた作品に贈られる「JAGDA賞」、今後の活躍が期待できる、有望な若手グラフィックデザイナー（39歳以下）に贈られる「JAGDA新人賞」を選出。世界でも評価の高い日本のグラフィックデザインの現在を伝えつつ、データベース性も持たせた、実用性の高いデザイン年鑑として、国内はもちろん、中国・韓国などでも販売されています。

また、年鑑掲載作品から選抜した約300点を実物と映像で展示する「日本のグラフィックデザイン展」、亀倉雄策賞受賞者による「亀倉雄策賞展」、新人賞受賞者による「JAGDA新人賞展」を毎年開催し、国内外に巡回展示しています【写真2】。